

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年09月10日

計画の名称	清洲駅を中心とした安心・快適・魅力ある都市環境の形成												
計画の期間	平成30年度 ~ 令和04年度 (5年間)										重点配分対象の該当	○	
交付対象	清須市												
計画の目標	-上位計画- 「水と歴史に織りなされた安心・快適な環境都市」を都市の将来像として掲げる都市計画マスタープランにおいて、JR清洲駅周辺地区は住宅地としての整備を図る位置づけがなされ、鉄道の利用促進として徒歩・自転車により安全に駅まで行ける道路の整備等も位置づけがなされている。 -計画の目標- 鉄道駅を中心とした安全・安心な居住環境の形成及び駅へのアクセス性向上による鉄道利用の促進を目的として、「駅を中心とした安心・快適・魅力ある都市環境の形成」の実現を目指すものである。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	1,017	A	944	B	0	C	73	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	7.17	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H30末)	中間目標値 (H32末)	最終目標値 (H34末)
1	駅に近い住宅地として整備を図る土地区画整理事業地区内の人口割合を0.35%から0.45%に増大 都市基盤整備等により安全・安心な居住環境の形成を図るため、駅に近い土地区画整理事業地区内の人口を調査し、本市全体の人口に占める割合を算出する。 駅近くの居住率=清洲駅前地区内の人口 / 清須市の人口 × 100(%)	35%	%	45%
2	駅へのアクセス性向上として整備を図る土地区画整理事業地区内の各街区からJR清洲駅への経路距離(標準偏差)を228mから206mに短縮 都市基盤整備等により駅へのアクセス性向上を図るため、土地区画整理事業地区内の各街区からJR清洲駅への経路距離を算出する。 駅へのアクセス経路距離=各街区からJR清洲駅への経路距離(標準偏差)	228m	m	206m
3	安全・安心な都市環境の形成を目的として整備を図る土地区画整理事業地区内の災害時に想定される道路閉塞割合を85%から70%に改善 都市基盤整備等により安全・安心な居住環境の形成を図るため、土地区画整理事業地区内の災害時に想定される道路閉塞割合を算出する。 地区内の災害時道路閉塞率=(幅員4m未満道路延長 + 幅員4m以上6m未満の道路延長 × 0.63 + 幅員6m以上の道路延長 × 0.33) / 道路総延長	85%	%	70%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業																					
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
												H30	H31	R02	R03	R04					
一体的に実施することにより期待される効果																					
備考																					
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	清須市	間接	清洲駅前土地区画整理組合	-	-	清洲駅前土地区画整理事業(1-A-1)	都市再生区画整理事業	10.2	清須市					944	1.58	-		
											小計						944				
											合計						944				

C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H30	H31	R02	R03	R04			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
市街地整備事業	C13-001	市街地	一般	清須市	直接	清須市	-	-	清洲駅前地区防犯灯整備 事業(1-C-1)	防犯灯 80基	清須市						3	-	
		土地区画整理事業(1-A-1)の整備にあわせて駅前の生活圏の防犯灯の整備を進めることにより、駅を中心とした安心・快適・魅力ある都市環境の形成に寄与する。																	
	C13-002	市街地	一般	清須市	直接	清須市	-	-	清洲駅前地区都市公園整 備事業(1-C-2)	街区公園 1箇所 A=0.3ha	清須市						70	-	
		土地区画整理事業(1-A-1)の整備にあわせて新設する都市公園にて遊具等の公園施設の整備を進めることにより、駅を中心とした安心・快適・魅力ある都市環境の形成に寄与する。																	
											小計						73		
											合計						73		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

清須市にて実施

事後評価の実施時期

令和6年9月9日

公表の方法

ホームページに掲載

事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

- ・土地区画整理事業に伴う保留地売買が令和5年度からのため、想定していた人口増加が見込めなかったものの、仮換地の利用により新規の地区内住民を呼び込むことができたため、駅近くの居住率が0.37%まで上昇した。
- ・地区内の道路の整備は進んでいるが、供用開始はされておらず、各街区から駅へのアクセス道路に関しては、既存道路や仮設道路の利用をしたため、経路距離の変更は見受けられない。
- ・地区内の道路の整備は進んでいるが、供用開始はされていない。移転補償等により空地が増えたものの、既存道路や仮設道路を活用しているため災害時道路閉塞率に変更は見受けられない。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

特記事項（今後の方針等）

・令和5年度より保留地の販売を開始するため、地区内人口の増加を見込むことができ、また令和7年度までに地区内道路の整備完了、供用開始を行っていくため、駅への経路距離の短縮、災害時道路閉塞率の減少を図ることができる。したがって次期計画では、計画通り事業を進められるように工事の段取り及び保留地の販売促進を行う。

目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	土地区画整理事業地区内の人口割合	
	最終目標値	45%
	最終実績値	37%
保留地の販売が令和5年度からとなったため、地区内人口の増加につながる要因がなく目標値を下回る結果となった。		
2	土地区画整理事業地区内の各街区からJR清洲駅への経路距離	
	最終目標値	206m
	最終実績値	228m
地区内道路の供用開始がなされておらず、既存道路や仮設道路の利用を行ったため目標値を下回る結果となった。		
3	土地区画整理事業地区内の災害時に想定される道路閉塞割合	
	最終目標値	70%
	最終実績値	85%
地区内道路の供用開始がなされておらず、既存道路や仮設道路の利用を行ったため目標値を下回る結果となった。		